

第74回宮崎県スポーツ学会 プログラム

日時：令和8年3月7日（土）15：00～19：00

場所：宮崎大学創立330記念交流会館
宮崎市学園木花台西1丁目1

会長：田島卓也

14:30～ 受付開始

非会員 参加費

医師	1,000円
メディカルスタッフ・一般	500円
学生	無料

会員 年会費

医師	2,000円
メディカルスタッフ	1,000円
施設会員	無料（施設会員費に含む）

※未納の方は当日お支払いをお願いいたします。

世話人会のお知らせ

14:30～14:50

宮崎大学創立330記念交流会館
コンベンションルーム

宮崎県スポーツ学会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL:0985-85-0986 FAX:0985-84-2931

共催 宮崎県スポーツ学会・宮崎県整形外科医会
久光製薬株式会社
後援 宮崎県医師会

開催および参加にあたってのお願い

宮崎県スポーツ学会では、ご参加の皆様およびスタッフの健康と安全を確保するため、下記の対応を行います。ご協力いただきますようお願い申し上げます。

1) 次の方はご参加をお控えください。

- ・37℃以上の発熱、咳など風邪の症状がある方
- ・感染者との濃厚接触の疑いがある方
- ・ご自身が所属する医療機関から参加自粛等の方針が示されている方
- ・その他、当日の体調に不安がある方

2) ご参加の際は、下記にご協力ください。

- ・マスクの着用をお願いします。
- ・会場内は定期的に換気いたしますので、予めご了承ください。

3) 当日の駐車場につきまして

- ・当日は、下記標記の駐車場をご利用ください。



皆様のご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

演者へのお知らせ

■口演時間：一般演題 1 題 5 分、討論 2 分

■発表データ作成要領

口演発表は、PC(パソコン)のみ使用可能ですので、あらかじめ御了承ください。

- (1) データの形式はMicrosoft Power Point Windows 版 Power Point2021 以上とします。
- (2) フォントは、標準で装備されているものを使用してください。
- (3) ファイル名には、演題番号と発表者名を入れてください。
- (4) 事前に動作確認を致しますので、データはメールで事務局へお送り頂くか、容量が大きい場合は事前に事務局までご連絡ください。
Mac で作成された場合は、必ず Windows で動作確認済みのデータをお送り下さい。
- (5) COI 開示の文言を必ず入れてください。利益相反の有無にかかわらず、全ての発表者に開示していただく必要があります。
- (6) 今年度より発表頂いた一般演題の中から優秀演題賞を 1 題選出し、閉会式で表彰いたします。

メール送信先：sports_office@med.miyazaki-u.ac.jp

※データ提出締切：令和 8 年 2 月 2 7 日 (金) 必着

世話人会のお知らせ

14：30～14：50 宮崎大学創立 330 記念交流会館コンベンションルーム

特別講演のお知らせ

18：10～19：10

『膝スポーツ損傷に対する運動器超音波診療』

金沢大学医学部整形外科

講師 中瀬 順介 先生

<上記講演は、次の単位として認定されています>

◆日本整形外科学会教育研修会：1 単位 受講料 1,000 円

認定番号:25-1800 必須分野 [2] [12] /スポーツ

※会員カードが廃止となり、日整会新システム (JOINTS) QR コードでの登録となります。
QR コード取得方法については、日本整形外科学会のホームページにてご確認ください。

◆日本リハビリテーション医学会生涯教育研修会:10 単位 受講料 1,000 円

◆日本医師会生涯教育講座：1 単位 受講料無料

◆日本医師会健康スポーツ医学再研修会:1 単位 受講料無料

◇運動器リハビリテーションセラピスト研修会：1 単位 受講料 1,000 円

◇健康運動指導士・実践指導者登録更新講習会：3 単位 受講料 1,000 円

この学会は、健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として、講義 3 単位が認められます。(認定番号 256844) ※ 受講終了後、健康運動指導士証及び健康運動実践指導者証を受付に提出してください。証明書に押印します。

◇宮崎県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー資格継続単位：2 ポイント 受講料無料

◇健康スポーツナース認定資格更新講習:1 時間 受講料無料

15:00～ 開会・会長挨拶・総会

15:10～ 一般演題Ⅰ

座長：宮崎大学医学部 看護学科 蒲原 真澄

1. 介護予防教室で取り組む運動プログラムの効果

宮崎大学医学部 看護学科 吉永 砂織、ほか

2. 中山間過疎地域における高齢者の体操教室参加が心理的健康に及ぼす影響

宮崎大学医学部 看護学科 畠山 芳彰、ほか

3. 中高生スポーツ選手向けのエネルギー摂取量別の食品構成の提案

公益社団法人 宮崎県栄養士会 栄養ケアステーション 日高 知子

4. 女子高校生アスリートのエネルギー必要量推定の試み

県立こども療育センター 永山 紀子

5. 高校生水球部の栄養サポート報告

—スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」—

宮崎スポーツ栄養協会 副会長 JSP0 公認スポーツ栄養士 管理栄養士 中村 優太、ほか

6. アンチ・ドーピング教育、啓発活動の取り組み

宮崎県薬剤師会 新留 誠一、ほか

〈休憩〉

16:00～ 一般演題Ⅱ

座長：宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 久保 彩

7. 「日本のひなた宮崎障スポ」を見据えたパラスポーツトレーナー活動の実態と意識変化

学校法人 都城コア学園 都城リハビリテーション学院 理学療法学科 益山 舞希、ほか

8. 日本のひなた宮崎障スポ開催に向けた多職種協働によるコンディショニンググループ運営体制の検討

—過去大会の視察から得られた課題と展望—

医療法人 文誠会 なんごう病院 佐藤 勇貴、ほか

9. 集束型体外衝撃波を用いた肘頭疲労骨折の治療経験

医療法人常陽会 かわはら整形外科リハビリテーションクリニック 一井 竜弥、ほか

10. 踵骨後傾テーピングが跳躍動作および下腿三頭筋筋発揮に及ぼす影響

野崎東病院 アスレティックリハビリテーションセンター 原田 昭彦、ほか

11. 高校生柔道選手に対する前十字靭帯断裂後の治療経過に関するアンケート調査(第2報)

社会福祉法人 恩賜財団 宮崎県済生会日向病院 リハビリテーション室 山元 公俊、ほか

12. 中学校野球部員に対する1年間の柔軟性指導とその変化について

医療法人 文誠会 なんごう病院 田脇 幸弥、ほか

13. 中学硬式野球クラブチームに対しての肘検診の実施報告

ふかおスポーツクリニック整形外科 渡辺 将成、ほか

〈休憩〉

17:00～ 一般演題Ⅲ

座長：かわはら整形外科リハビリテーションクリニック 河原 勝博

14. 宮崎県とハイパフォーマンススポーツセンターのメディカルチェックの相違について

宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 岡村 謙佑、ほか

15. 2025年Pacific Mini Gamesにおける3×3バスケットボール競技の救護活動

宮崎大学医学部 看護学科 蒲原 真澄、ほか

16. JFL所属の企業サッカーチームにおける外傷・障害発生に関する一考察

Athlete House fan 宮本 浩幸、ほか

17. サーフィン外来開設から見てきた競技特異的障害の実態と対応

医療法人社団橘会 橘病院 整形外科 小島 岳史、ほか

18. 宮崎県におけるラグビーチームのキャンプメディカルサポート

宮崎大学医学部 整形外科 濱川 晃輔、ほか

19. 女子トップアスリートのアキレス腱断裂に対する治療経験 —5ヶ月半で試合復帰した1例—

Mスポーツ整形外科クリニック 樋口 潤一、ほか

20. Clot-in-Clot法を用いた半月板縫合術の初期成績

野崎東病院 整形外科 三橋 龍馬、ほか

21. 大腿四頭筋腱グラフトを用いた前十字靭帯再建術の短期治療成績

JCHO 宮崎江南病院 整形外科 吉川 大輔、ほか

〈休憩〉

18:10～19:10 特別講演

座長：宮崎大学医学部 整形外科 田島 卓也

「膝スポーツ損傷に対する運動器超音波診療」

金沢大学医学部整形外科 講師 中瀬 順介 先生

19:10 優秀演題賞の発表・閉会

会長挨拶・総会（15：00）

一般演題Ⅰ（15：10～）

座長：宮崎大学医学部看護学科 蒲原 真澄

1. 介護予防教室で取り組む運動プログラムの効果

○吉永砂織（よしなが さおり）¹⁾ 蒲原真澄¹⁾ 日吉真理子²⁾

- 1) 宮崎大学医学部看護学科
- 2) NPO 法人健康づくり研究会

本研究は、宮崎県日南市で開催された介護予防教室の参加者 36 名を対象に、身体機能、認知機能の変化について明らかにすることを目的とした。教室は運動と講座またはグループワークから構成されたプログラムが展開され、週1回、計 14 回実施された。初回と最終回に体力測定（握力、椅子立ち上がり、TUG）と（Touch Panel-type Dementia Assessment Scale (TDAS)）による認知機能評価を実施した。各体力項目について、女性は教室前に比べ教室後に有意に向上していた（ $p < 0.001$ ）。男性も各項目の平均値は良くなっていた。TDAS 得点の平均値は初回に比べ最終で低下していたが、有意な差は見られなかった（ $p = 0.08$ ）。高齢者にとって、定期的な外出の機会、他者との交流、運動実践は介護予防において重要な意義をもつことが示された。

2. 中山間過疎地域における高齢者の体操教室参加が心理的健康に及ぼす影響

○畠山芳彰（はたけやま よしあき） 河原明日香 蒲原真澄 吉永砂織

宮崎大学医学部看護学科

【目的】中山間過疎地域において、体操教室に参加する高齢者の心理的健康に及ぼす影響を明らかにするとともに、地域における高齢者の健康づくり活動の意義を検討し、地域での継続的な介護予防活動を推進するための知見を得ることを目的とした。

【方法】体操教室参加者を対象に、気分、意欲・生きがい、社会的つながりの3領域6項目（4件法）からなる質問紙調査を実施した。

【結果】参加者は、18名（男性3名、女性15名）で、平均年齢±標準偏差は85.3±5.3歳であった。

3領域の合計得点の平均は22.5点（24点満点）と高く、全領域で肯定的評価が得られた。年齢別では、80歳以上、性別では女性、参加年数別では長期参加者で高得点傾向がみられた。

【考察】体操教室は中山間過疎地域において高齢者の心理的健康および社会的つながりを支える有効な地域活動であることが示唆された。今後は、地域特性を踏まえ、継続的な取り組みにつながる支援の検討が必要である。

3. 中高生スポーツ選手向けのエネルギー摂取量別の食品構成の提案

○日高知子（ひだか ともこ）

公益社団法人宮崎県栄養士会 栄養ケアステーション

【背景】スポーツ選手の栄養指導は、栄養素による指導では分かりにくいことから、食品群ベースの指導が必要であるため基準となる推奨食品構成表を作成したので報告する。

【方法】2022～2026年までに得られた国体候補選手等の食事データから2000kcal未満 2500kcal未満 3000kcal未満 4000kcal未満 4000kcal以上の5群に分け、群ごとに食事摂取基準2025を満たす推奨食品構成表の作成を試みた。なお、12～14歳、15～17歳の男女の基準値の高い方を用いた。ただし、耐容上限値に関しては低い方の値を用いた。またエネルギー代謝に関わるVitB1, VitB2, ナイアシン当量については1000kcal当たりを、たんぱく質代謝に関わるVitB6はたんぱく質1g当たりの摂取量についても検討を行った。

【結果及び考察】スポーツ栄養では、 $\text{摂取エネルギー} = \text{除脂肪体重} \times 28.5 \times 2$ が用いられることが多いが、今回のエネルギー区分は多くの種目をカバーしていると考えた。ただ、たんぱく質に関してのバリエーションが無いため今後の検討を必要と考えた。

4. 女子高校生アスリートのエネルギー必要量推定の試み

○永山紀子（ながやま のりこ）

県立こども療育センター

【はじめに】適切な栄養管理のためにエネルギー必要量を推定する必要があるが、女子高校生アスリートのための明確な推定式はない。今回既存の推定式を用いて、エネルギー必要量の推定を試みたので報告する。

【方法】県内某高校女子ホッケー部のデータから、基礎代謝基準値を用いた式、田口式、国立健康・栄養研究所の式(NIHM式)により推定を行った。

【結果】体脂肪率、 $26.8 \pm 4.3\%$ 、%標準体重、 $101.1 \pm 8.7\%$ 、推定エネルギー必要量は、基礎代謝基準値を用いた式 $2223.3 \pm 213.6\text{kcal/日}$ 、田口式 $1761.2 \pm 121.7\text{kcal/日}$ 、NIHM式 $2046.7 \pm 121.0\text{kcal/日}$ であった。

【考察】体格は標準的であることから、田口式を採用すると過小評価する可能性が考えられた。女子高校生アスリートの栄養管理は、成長期であることを考慮しつつ、適切な推定値を基に体重や体格の変動を指標にして行う必要がある。

5. 高校生水球部の栄養サポート報告

ースポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」ー

○中村優太（なかむら ゆうた）^{1) 2)} 平田真樹子¹⁾ 土井美佳¹⁾ 川北久美子^{1) 3)} 長友多恵子^{1) 3)}
木村志緒^{1) 3)} 杉尾直子¹⁾

- 1) 宮崎スポーツ栄養協会
- 2) 南九州大学大学院食品科学専攻
- 3) 南九州大学健康栄養学部管理栄養学科

【はじめに】高校生水球選手の体重増量及び栄養摂取の改善を目的とした栄養サポートを行ったので、報告する。

【実施内容】期間は2024年11月から2025年2月までの3か月間。体組成測定結果をもとに監督と協議し体脂肪率20%未満の選手5名を増量、その他の6名を栄養教育による栄養摂取の改善とした。アセスメント項目は身体計測、食事調査（簡易型自記式食事歴法質問票）、故障歴等調査、食生活アンケート、個別面談を実施した。

【結果】介入を行った5名全員に体重増加がみられ、うち3名は除脂肪体重の増加がみられた。

【考察】栄養サポート期間中に修学旅行があり食生活が乱れた生徒や体調不良による体重減少もみられたことから学校行事を事前に把握することが重要であった。今回のサポート期間では、食事調査の結果に大きな改善は見られなかったものの、体重は増加傾向にあり「自分に足りない栄養等が分かりとても良かった。」等選手自身の食事や栄養に対する意識が高まったと考えられる。

6. アンチ・ドーピング教育、啓発活動の取り組み

○新留誠一（しんとめ せいいち） 山田晋太郎 富永竜彦

（一社）宮崎県薬剤師会 健康啓発委員会

【内容】ドーピング検査は、主にトップレベルの競技者を対象に実施される傾向にある。登録検査対象者リスト（RTP）等のアスリートであれば、競技団体による教育を受ける機会も多いが、一方で国民スポーツ大会等に参加するアスリートの中には、これまで十分なアンチ・ドーピング教育を受けていない競技者も多く、参加が決まり初めて講習を受け、知識習得が不十分となるケースも少なくない。「意図しないドーピング」を防ぐためにも、宮崎県薬剤師会では、青島太平洋マラソン等の市民向けスポーツイベント等で、低年齢の若いアスリートに向けた、ゲーム形式の親しみやすい啓発活動を行い、競技者だけでなく、その家族や周囲の理解促進にも努めてきた。本発表では、その具体的な取り組みと、活動を通じて得ることができた意見、今後のアンチ・ドーピング教育についての課題を報告する。

一般演題Ⅱ（16：00～）

座長：宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部 久保 彩

7. 「日本のひなた宮崎障スポ」を見据えたパラスポーツトレーナー活動の実態と意識変化

○益山舞希（ますやま まいき）¹⁾³⁾ 大山史朗²⁾³⁾ 谷明¹⁾ 松元春香²⁾³⁾

- 1) 学校法人 都城コア学園都城リハビリテーション学院
- 2) 医療法人 岡田整形外科
- 3) 宮崎アスレティックトレーナー協会 パラトレーナー部会

【目的】パラスポーツ支援活動への参入に対する心理的ハードルを明らかにし、実際の活動を通じた気づきをもとに、今後の円滑な参入可能性を検討することを目的とした。

【方法】パラスポーツに関わるトレーナー12名を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は、保有資格や活動経験、参入前後の意識変化、日常業務と支援活動の親和性、新規参入に対する認識などとした。

【結果】回答者の多くは医療・スポーツ関連の資格を有し、双方の活動経験があった。参入前の心理的ハードルには「障害特性や医学的対応への不安」が挙げられたが、参入後はスタッフの支援により円滑に活動できたとする回答が多かった。また、病態・機能評価やリスク管理など、日常業務で培った臨床スキルの有用性が認識されていた。

【結論】パラスポーツ活動は臨床スキルとの親和性が高く、他スタッフとの協力・協働体制のもとで円滑に参入可能であることが示唆された。

8. 日本のひなた宮崎障スポ開催に向けた多職種協働によるコンディショニングルーム運営体制の検討—過去大会の視察から得られた課題と展望—

○佐藤勇貴（さとう ゆうき）¹⁾⁵⁾ 松元春香²⁾⁵⁾ 大山史朗²⁾⁵⁾ 水浦毅彦³⁾⁵⁾ 長友典子⁴⁾⁵⁾

- 1) 医療法人文誠会 なんごう病院
- 2) 医療法人岡田整形外科
- 3) Skylink
- 4) 宮崎リハビリテーション学院
- 5) 宮崎アスレティックトレーナー協会 パラトレーナー部会

【はじめに】近年、国民スポーツ大会ならびに全国障害者スポーツ大会(以下、障スポ)において、コンディショニングルーム(以下、CR)設置の重要性が高まっている。一方、障スポの現場では、AT、PT、OT、鍼灸師、柔道整復師など多職種が関与するものの、職種別運営が主となっている。本発表では、過去2大会の障スポ視察で得られた知見を踏まえ、2027年日本のひなた宮崎・障スポに向けた多職種協働によるCR運営体制構築の論点を整理し、報告する。

【内容】障スポCR運営においては人的資源の不足が恒常的な課題であり、限られた人員の中で職種ごとの役割に依存した対応が行われている実態が確認された。

【考察】人材不足という課題に対し、多職種が相互理解のもと役割を補完し合う協働的な関与の重要性が示唆された。本発表が、2027年宮崎・障スポに向けた多職種協働体制構築のきっかけとなることを期待する。

9. 集束型体外衝撃波を用いた肘頭疲労骨折の治療経験

○一井竜弥 (いちい たつや) 河原勝博

医療法人常陽会 かわはら整形外科リハビリテーションクリニック

【序論】今回、尺骨肘頭の疲労骨折に対し集束型体外衝撃波(FSW)を用いた治療を経験したため報告する。

【症例】県大会優勝レベルの野球部に所属する10代男性(外野手・投手、右投左打)。2024年12月より右肘後面の疼痛を自覚し2025年3月に他院を受診、右肘頭疲労骨折と診断された。その後、FSWを含む対応目的で、7月に当院へ紹介受診され対応を開始した。FSWはBTL社製BTL-6000 FoCus®を使用し、骨折部に対し0.23~0.27mJ/mm²にて計7回施行し、並行して全身の機能改善を図った。9月のX線で仮骨形成を認め、徐々に投球再開、10月の九州地区大会への参加を含めて競技復帰した。

【考察】肘頭疲労骨折は見逃され重症化しやすく、野球肘全体の約1~5%と稀である。今回の症例のように、疲労骨折の程度や時期を考慮した上でFSWを施行し、並行して機能的な問題点の解決を図れば、保存的加療による対応が可能な症例もあると考える。

10. 踵骨後傾テーピングが跳躍動作および下腿三頭筋筋発揮に及ぼす影響

○原田昭彦 (はらだ あきひこ)¹⁾ 伊東佑将¹⁾ 釘元菜月¹⁾ 中野由樹¹⁾ 長倉駿平¹⁾ 鶴丸颯真¹⁾
三橋龍馬²⁾

1) 野崎東病院リハビリテーション科

2) 野崎東病院整形外科

【はじめに】踵骨後傾テーピング(以下:CTA)は、足部アライメントを即時的に調整する手技として臨床およびスポーツ現場で用いられている。しかし、その介入が跳躍動作や下腿三頭筋の筋発揮に及ぼす影響を、統計的および効果量の観点から検討した報告は少ない。本研究は、CTAが跳躍動作および下腿三頭筋の筋発揮に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

【対象・方法】対象は健常成人5名(男性3名・女性2名)とした。踵骨部にダブルスプリットテープを用いて後傾誘導を行い、テーピングなし・あり条件で片脚垂直跳び、片脚立ち幅跳び、足関節底屈筋力を測定した。統計解析にはR(version4.5.2)を用いR Commanderを使用し差分データの正規性を確認後、対応のあるt検定を実施し効果量としてCohen's dzを算出した。

【結果】片脚垂直跳びおよび足関節底屈筋力では有意な差が認められ、いずれも大きな効果量を示した。一方、片脚立ち幅跳びでは有意差は認められなかったが、中~大程度の効果量が確認された。

【考察】CTAは、筋力を直接増強する介入ではなく、足部アライメントの最適化を通じて下腿三頭筋の力発揮効率や床反力の伝達を高める可能性が示唆された。臨床における機能改善や、スポーツ場面での跳躍・推進動作の質向上に寄与する即時的介入として有用であると考えられる。

1 1. 高校生柔道選手に対する前十字靭帯断裂後の治療経過に関するアンケート調査(第2報)

○山元公俊(やまもと きみとし)¹⁾ 山元弘¹⁾ 後藤静良¹⁾ 森田雄大²⁾

- 1) 社会福祉法人恩賜財団 宮崎県済生会日向病院リハビリテーション室
- 2) 宮崎大学医学部整形外科

【背景】2025年3月に高校生柔道選手に対するACL断裂後の治療経過についてアンケート調査結果を報告したが、回答率の低さや質問内容に課題を感じた。今回、質問項目を追加し前年度同様高校柔道選手に対しアンケート調査を行ったので報告する。

【対象・方法】2025年12月25-28日において、宮崎ひむか高等学校柔道交流練成会に参加した選手803名(男子79チーム:507名、女子48チーム:296名)を対象とした。方法はGoogleフォームを用いACL損傷の既往ならびに治療経過、現在の膝の状況などについてアンケート調査を行った。

【結果】回答者59名(回答率7%)、そのうちACL断裂既往者5名(手術群3名、保存群2名)、手術群は2ヶ月以内に手術しており、保存群では受傷から4-5年経過し無症状や試合を理由に手術を選択していなかった。また、保存群は膝の違和感や不安定さあり、手術群は違和感あり。パフォーマンスは両群ともに低下なしとの結果であった。

【考察】ACL不全膝では不安定性からパフォーマンス低下が問題視される。今回、保存群が手術群同様に自覚的なパフォーマンスの低下がないとの結果であり、これは個人・環境因子に加えて、手術選択しない要因の一つになるのではないかと考えられる。そのため、手術の必要性や膝の二次損傷に関して選手や指導者への啓発活動が必要ではないかと思われる。

1 2. 中学校野球部員に対する1年間の柔軟性指導とその変化について

○田脇幸弥(たわき ゆきや) 川添浩史

なんごう病院

【はじめに】令和7年度に発足した中学校野球部の1年生を対象に、月1~2回の練習参加を通じて柔軟性改善を目的とした指導を実施した。併せて年3回柔軟性評価を実施する機会を得たため報告する。

【対象と方法】令和7年度入学の中学校野球部新1年生12名を対象とし、3月にスクリーニング検査、7月と11月には柔軟性テストを行った。テスト項目は下肢の柔軟性の全8項目とし、各項目5点、合計40点満点で独自に点数化した。

【結果】柔軟性テストでは7月評価と比較し11月評価で点数が上昇した生徒は6名、変化が認められなかった生徒は1人、点数が低下した生徒は5人であった。

【考察】本指導により柔軟性が改善した生徒がいた一方、低下を示す生徒も存在した。今後は発育段階を考慮した指導方法及び評価時期の検討が必要である。

1 3. 中学硬式野球クラブチームに対しての肘検診の実施報告

○渡辺将成（わたなべ まさあき） 深尾悠

ふかおスポーツクリニック整形外科

【目的】今回、中学生の硬式野球選手に対して肘検診を実施する機会を得たのでその結果を若干の考察を踏まえて報告する。

【対象と方法】対象は中学硬式野球クラブチームに所属する37名に対して実施した。

内訳は年齢12歳から14歳の中学1年生から2年生で男性36名、女性1名であった。検診方法は問診によるスポーツ歴等の調査、医師による超音波検査ならびに理学療法士による肘関節の可動域測定と肘関節外反ストレステストを実施した。

【結果】超音波検査にて4名に内側上顆部の異常を認めた。外側上顆の異常は認めなかった。また、可動域測定にて内側上顆部の異常を認めた1名に軽度の肘関節伸展制限を認めた。外反ストレステストの陽性者は認めなかった。

【考察】少年野球や中学軟式野球と比較し、中学硬式野球選手に対して肘検診を実施している報告はまだ少ない。今回、超音波検査による内側上顆への異常所見が4名発見された。早期発見のためにも中学生の硬式野球選手への肘検診は有用であると考えられる。

一般演題Ⅲ（17：00～）

座長：かわはら整形外科リハビリテーションクリニック 河原 勝博

1 4. 宮崎県とハイパフォーマンススポーツセンターのメディカルチェックの相違について

○岡村謙佑（おかむら けんすけ）¹⁾ 落合優¹⁾ 久保彩¹⁾ 川口翼¹⁾ 伊波わか葉¹⁾ 長友朱里¹⁾
下沖爽子¹⁾ 金納真美¹⁾ 宮崎茂明¹⁾ 田島卓也^{2) 3)} 荒川英樹¹⁾

1) 宮崎大学医学部附属病院リハビリテーション部

2) 宮崎大学医学部整形外科

3) 宮崎大学医学部スポーツメディカルセンター

2027年に宮崎県で国スポ・障スポの開催予定であることは周知の通りである。また、今年度より九州初のハイパフォーマンススポーツセンター（以下、HPSC）の連携機関として当大学は認定された。スポーツ庁委託事業として地域住民健康増進モデルが採択され、地域におけるスポーツ医・科学サポート体制の構築を図っている。その中で中央団体との交流事業の一環として令和5年度から令和7年度までの3年間で国立スポーツ科学センター（以下、JISS）に視察団を送り、研修を行った。メディカルチェック（以下、MC）では宮崎県とJISSで実施されていた測定項目や測定方法に相違があった。また、HPSCでの研修の中で視察見学だけでなく模倣練習も実施させていただくことができた。今回、宮崎県内とJISSとのMCの相違点を挙げた。今後、JISSに合わせることでMCの標準化を図り、宮崎県でも質の高いスポーツ医学サポートが受けられる体制を構築し、宮崎県での国スポ・障スポ開催に向けてその一助になれば幸いである。

15. 2025年 Pacific Mini Games における 3×3 バスケットボール競技の救護活動

○蒲原真澄 (かもはら ますみ)¹⁾ 吉永砂織¹⁾ 鶴田来美²⁾

- 1) 宮崎大学医学部看護学科
- 2) 周南公立大学

2025年7月にパラオで開催された南太平洋地域の小規模な国・地域が参加する国際的な総合競技大会である Pacific Mini Games に、健康スポーツナース 13 名が参加した。太平洋諸島約 23 か国、約 2,000 名のアスリートが集い、12 競技が実施された。本報告では、3×3 バスケットボール競技における救護活動を報告する。

救護体制は 2 交代制 (7 時～15 時、14 時～22 時)、出務時間は 12 時 30 分～22 時であった。看護師、コミュニティヘルスワーカー、トレーナーでチームを編成し現場にて救護活動を担った。併せて、医師・看護師のモバイルチームの巡回支援が行われた。対応事例はコンタクトレンズ紛失、眼窩裂傷、擦過傷の計 4 事例であり、看護師は主に出血を伴う症例や選手からの要望に対応した。

看護師は症状の評価や処置を判断し、限られた医療物資の中で適切な対応が求められた。また、国や職種の異なるスタッフと円滑に協働するためには、ミーティング通じて各々の役割を共有し、連携を図ることが重要であった。

16. JFL 所属の企業サッカーチームにおける外傷・障害発生に関する一考察

○宮本浩幸 (みやもと ひろゆき)¹⁾ 谷合司聖²⁾ 喜多恒允³⁾ 樋口誠二⁴⁾ 樋口潤一¹⁾²⁾

- 1) Athlete House fan
- 2) M スポーツ整形外科クリニック
- 3) 宮崎大学医学部整形外科
- 4) 大江整形外科病院

【目的】JFL は J リーグを目指すクラブ、企業チーム、地域のアマチュアクラブなどが参加している全国リーグで、年間を通しリーグ戦やカップ戦を行っている。今回は外傷・障害発生の予防策や競技復帰への基礎資料を得るため調査・検討を行った。

【対象と方法】JFL 所属の企業サッカーチームに在籍する 27 名。対象期間は 2025 年 1 月から 12 月でトレーニング、試合に 1 回以上参加できなかった外傷・障害を対象とした。

調査項目は①発生件数、②受傷機転、③GPS データから筋損傷のリスクを予見できるか、DF5 名を対象に 3 月 30 日から 5 月 18 日までの 7 週間、公式戦 7 試合を調査、④脳振盪、頭部打撲後に発生した外傷、とした。

【結果】①総数 30 件、筋損傷・腱障害は 10 件で開幕前に 5 件発生。②接触 11 件、非接触 11 件、他の物と接触 8 件。③1 名がスプリント中に大腿二頭筋損傷発生。④段階的競技復帰中に足関節外傷 2 名、復帰後、大腿二頭筋損傷 1 名であった。考察も含め報告する。

17. サーフィン外来開設から見えてきた競技特異的障害の実態と対応

○小島岳史（こじま たけし） 石田翔太郎

橘病院整形外科

【はじめに】サーファーは自然志向で病院嫌いが多い。診断もつかないまま「あ、は、き」に通い、症状を悪化させてしまう方も多い。そのようなサーファーを救おうと2018年より「サーファー外来」を開設させ、サーフィン医学の普及に力を入れてきた。少しずつではあるが積極的な受診行動も見受けられるようになった。その内容を報告する。【対象と方法】2018年4月から2025年4月までに受診したサーファー88名(男性64名、女性24名)96例を対象とし、年齢、サーフィン歴、通院歴、施行した検査、診断名、手術症例を調査した。【結果】受診時平均年齢は43.8歳(15~80歳)、平均サーフィン歴は21.3年で、傷害に対しての通院歴無しが40例、整形外科が38例、整骨院が17例であった。施行検査はX線検査89例、MRIが67例、手術を9例におこなった。【考察】サーフィンを長く続けると傷害発生のリスクが増加すると報告されており、今回も年齢、サーフィン歴ともに他スポーツより高い傾向であった。受診数は多くはないが、宮崎県ならではの必要な専門外来と考えている。一方で、波のコンディションが良い日は予約を入れていても来院しない、あるいは時間通りに来院しないケースが多く、薬や手術を避ける傾向がみられた。今後は、サーファーが受診しやすい診療スケジュールの工夫や復帰を見据えた段階的な治療プランを提供することに取り組みたい。

18. 宮崎県におけるラグビーチームのキャンプメディカルサポート

○濱川晃輔（はまかわ こうすけ）¹⁾ 田島卓也^{1) 3)} 山口奈美¹⁾ 森田雄大¹⁾ 喜多恒允¹⁾ 三橋龍馬²⁾
亀井直輔¹⁾

- 1) 宮崎大学整形外科
- 2) 野崎東病病院
- 3) 宮崎県ラグビー協会

【目的】宮崎県で実施されたラグビーチームキャンプ時における後方支援病院の受診状況および医療対応の実態を明らかにし、キャンプ医療体制の有用性を検討する。

【対象と方法】2020年1月から2025年12月までに、宮崎県内でキャンプ中に後方支援病院を受診したラグビー選手・スタッフ108名を対象とした。受診理由、受傷部位、診断、受診診療科、ポジションについて、後方支援病院に対しメール調査を行った。

【結果】平均年齢は29歳であった。受診理由は画像検査が69%を占め、そのうち76%がMRI検査であった。外傷による受診は83%で、下肢外傷が54%と最多であった。外傷の診断は筋損傷46%、靭帯損傷18%であった。受診診療科は整形外科が76%であったが、内科系を含む他科受診も24%に認められた。

【考察】ラグビーキャンプ医療では外傷のみならず多様な医療需要が存在し、時間外を含めたMRI実施体制と、多診療科が連携する包括的な後方支援体制が重要である。

19. 女子トップアスリートのアキレス腱断裂に対する治療経験 -5ヶ月半で試合復帰した1例-

○樋口潤一（ひぐち じゅんいち）¹⁾ 谷合司聖¹⁾ 甲斐紀章¹⁾ 宮本浩幸²⁾

- 1) M スポーツ整形外科クリニック
- 2) Athlete House fan

今回我々はなでしこリーグ1部に参戦している女子チームに所属する選手のアキレス腱断裂に対してメディカルとフィジカルの連携で5ヶ月半で試合復帰したケースを経験したので報告する。
選手は36歳女性、ポジションはFW。3月16日に行われた試合で受傷した。
3月17日当クリニック初診となりアキレス腱断裂の診断で3月21日手術施行。
術後リハビリテーションと合わせてトレーニングを行い5ヶ月でトレーニング復帰し5ヶ月半でなでしこリーグ9月6日のリーグ戦にメンバー入りし交代出場、9月14日の試合では先発出場となった。
通常のアキレス腱断裂の治療と比較し早期復帰が可能であった要因を検討しトップアスリートに対する治療に関して何が必要かを報告する。

20. Clot-in-Clot 法を用いた半月板縫合術の初期成績

○三橋龍馬（みつはし りゅうま） 増田寛 濱中秀昭 久保紳一郎 田島直也

野崎東病院整形外科

近年、若年スポーツ選手を中心に、従来は縫合適応外とされてきた半月板損傷に対しても縫合術が選択される機会が増加している。当科では半月板縫合術における治癒促進を目的として末梢血由来フィブリンクロット(PFC)を併用してきたが、より高い治癒促進効果が期待される骨髄血由来フィブリンクロット(BFC)は関節内デリバリーに課題がある。そこでPFCを筒状に成形し、その内部にBFCを挿入するClot-in-Clot(CIC)法を導入し、初期成績を検討した。2024年1月～9月にCIC法を併用した半月板縫合術を施行し、術後6か月以上経過観察可能であった25膝を対象とした。全例でマイクロフラクチャー法を併用した。平均年齢40.0歳、平均追跡期間13.0か月で、リシオルムスコアは術前70.7点から術後88.2点へ改善した。再手術は3例で、2例は縫合糸摘出により水腫が改善し、1例は再断裂であった。CIC法に起因する有害事象は認めず、BFCの安定した関節内デリバリー法として有用性が示唆された。

2 1. 大腿四頭筋腱グラフトを用いた前十字靭帯再建術の短期治療成績

○吉川大輔（よしかわ だいすけ） 當瀬雅大 福永幹 日高三貴 鎌田綾 甲斐糸乃 益山松三

JCHO 宮崎江南病院整形外科

【目的】前十字靭帯再建術(ACLR)において、大腿四頭筋腱(QT)グラフトとハムストリング(HT)グラフトを用いた症例の短期治療成績を比較検討すること。

【対象】当院で ACLR を施行した症例のうち、術後 6 か月以上の経過観察が可能であった QT 群 16 例、QT 群とほぼ同時期に手術を施行した HT 群 19 例とした。主要評価項目は Lysholm score, KOOS 各サブスケール, 等速性膝伸展筋力、前方移動量(KT-1000)とした。

【結果】Lysholm score および KOOS は両群で有意差を認めなかった。一方、膝伸展筋力は QT 群で患側の筋力低下がやや大きい傾向を示した。

【考察】QT 群は主観的評価においては HT 群と同等の臨床成績を示したが、膝伸展筋力低下が大きい傾向にあった。このことから、スポーツ復帰に関して HT 群より遅延する可能性が考えられた。そのため、症例選択や術後リハビリテーションプランを検討する必要がある。

特別講演 (18:10~19:10)

座長:宮崎大学医学部整形外科 田島 卓也

「膝スポーツ損傷に対する運動器超音波診療」

金沢大学医学部整形外科 講師 中瀬 順介 先生

膝スポーツ損傷に対する診断と治療は、超音波診断装置の出現によって大きく変化した。

空間分解能に優れるのみならず、診断後すぐに超音波ガイド下でインターベンションを行うことも可能である。これまで病態がわからずに何となく安静を指示していた疾患に対して、超音波を駆使することで診断と治療が大きく変化してきている。

本講演では自験例を中心に見逃し例を含めて紹介する。

19:10~ 優秀演題賞の発表

■□■ 閉 会 ■□■